

セルリアンタワー 能楽堂

# 定期能九月 —— 観世流

二〇二五年

九月二十三日(火祝)



第一部 午後一時開演(十二時三十分開場)

解説 村上 湛

仕舞 鶴 観世 三郎太

狂言 萩大名 三宅 近成

能 邯鄲 角 幸二郎

解説 村上 湛

第二部 午後四時三十分開演(四時開場)

仕舞 班 女 高梨 良一

狂言 清 水 三宅 右矩

能 半 蔀 関根 祥丸



CERULEAN TOWER

# 能楽堂

NOH THEATRE

【第一部】午後一時開演

解説 村上 港

仕舞

鶴 観世三郎太

地謡

杉浦悠一朗  
坂井 音晴  
武田 尚浩  
関根 祥丸

萩大名

狂言

大名 三宅 近成

太郎冠者 三宅 右矩  
亭主 金田 弘明

——休憩(十五分)——

能

邯鄲

舞童 武田 智継  
廬生 角 幸二郎

勅使 宝生 常三  
重大臣 館田 善博  
大臣 梅村 昌功  
奥昇 大日方 寛  
奥昇 則久 英志  
宿の女主人 前田 晃一

大鼓 原岡 一之  
小鼓 観世新九郎

太鼓 小寺真佐人  
笛 松田 弘之

後見 武田 祥照  
関根 知孝

地謡

杉浦悠一朗  
田口 亮二  
佐川 勝貴  
金子 聡哉  
武田 文志  
坂井 貴信  
清水 義也  
観世三郎太

（終演予定 午後三時四十分）

【第二部】午後四時三十分開演

解説 村上 港

仕舞

班女 高梨 良一

地謡

田口 亮二  
関根 祥大  
角 幸二郎

清水

狂言

太郎冠者 三宅 右矩

主 三宅 近成

——休憩(十五分)——

能

半部

夕顔の女 里女 関根 祥丸

安居の僧 宝生 常三

大鼓 亀井 広忠  
小鼓 飯田 清一

笛 松田 弘之

所の者 高澤 祐介

後見 岡庭 祥大  
武田 尚浩

地謡 田口 亮二  
佐川 勝貴  
金子 聡哉

武田 祥照  
坂井 音晴  
清水 義也  
武田 文志

（終演予定 午後七時〇〇分）

◎萩大名 (はぎだいみょう)

長らく在京している田舎大名が、太郎冠者の案内である庭園に萩の花見に出かけます。即興で和歌を所望された場合を予想して、太郎冠者が聞き覚えの一首「七重八九重とこそ思ひしに十重咲き出づる萩の花かな」を教えますが、大名には覚えられません。そこで、太郎冠者が一句一句物になぞらえ、その場で密かに合図を送ることに決めておきます。いざ庭園に着くと、大名はまず庭の景観を褒めますが…

◎邯鄲 (かんだん)

中国、蜀の国の廬生という青年は人生に迷い、楚の国羊飛山の高僧に教えを乞おうと旅立ち、途中、邯鄲の里で一軒の宿屋に泊まります。その宿の女主人は、かつて仙術を行う人を泊めた時、そのお札にと不思議な枕を貰い、その枕を用いて寝ると夢によって悟りを開くのだと言います。廬生は女主人に勧められ、食事の支度をその間その枕を借りてひと眠りすることにし、うとうとすると、楚の国の帝が廬生に位を譲ると言う勅使に起こされます。廬生は天にも昇る心地で輿に乗って宮殿に赴き王位につき、それから五十年酒宴は続き、臣下は廬生に不老長寿の靈酒を捧げます。廬生は自らも歓喜の舞を舞い、栄華を極めた毎日を送った…と思いましたが、宿屋の主人が粟の飯が炊けたと起こしに来ます。目を覚ましたが廬生はすべて夢であったのかと呆然としますが、人生何事も一炊の夢と悟り、枕に感謝し満ち足りた気持ちで故郷へ向かいます。

◎清水 (しみず)

茶会を開く事になった主人は、太郎冠者に秘蔵の水桶を持たせ、野中の清水へ水を汲みに行くよう言いつけます。水汲に行きたくない太郎冠者は一計を案じ、水桶を隠すと屋敷へ戻り、大騒ぎで「清水に鬼が出たので水桶を投げつけ逃げ帰った」と報告します。すると、主人は水桶を惜しがり、自ら取り返しに行くと言います。太郎冠者は先回りして待っていると…。「武悪」の面を使い、鬼に早変わりする太郎冠者と主人の攻防が見どころです。セリフの掛け合いの妙をお楽しみ下さい。

◎半部 (はじとみ)

雲林院の僧が夏安居(夏の修行)の終わりに、立花供養(その期間に仏に供えた花々の供養)を行います。そこへ一人の女が現れて夕顔の花を手向けます。僧が女に名を尋ねるとただ夕顔の花とだけ答え、更に問い詰めると五条あたりの方がいい、活けられた花の陰に消え失せませよ。(中入)僧が不思議に思っていると、所の者がやって来て光源氏と夕顔の物語を聞かせ、その女は夕顔の亡霊であろうと述べ用いやすめます。僧が五条あたりを訪ねてみると荒れ果てた一軒の家に夕顔が咲いており、寂しい秋の景色を眺め『源氏物語』の昔を偲んでいると、半部を押し上げて一人の女が現れます。女は光源氏との思い出を語り、舞を舞いますが、夜明けを告げる鐘と共に僧に別れを告げ、また半部の中へ消えて行ったと見えました。それは僧の夢の中のことでした。シテは夕顔の花の精とも夕顔の女とも取れ、花と女との茫漠とした描き方はかない生命の夕顔の花に寄せられ効果的です。恋の思い出に生きる、ひそやかな女の純情を描いた詩的な作品です。

2025年 9月23日(火祝)

第一部 午後1時00分開演 (12時30分開場)  
第二部 午後4時30分開演 (4時00分開場)

◎チケット申し込み:

- ▶ Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999 (10:00-15:00) https://my.bunkamura.co.jp
- ▶ オンラインチケットMY Bunkamura
- ▶ 東急シアターオーブ / Bunkamura チケットカウンター 渋谷ヒカリエ2F (11:00-18:00)

※営業時間は変更になる可能性がございます。最新情報は能楽堂HPをご確認ください。  
※都合により公演の一部(出演者・曲目等)を変更する場合がございます。ご了承下さい。  
※公演中止、または主催者がやむを得ないと判断する場合以外のチケットの払戻しはいたしません。

◎前売開始

MY Bunkamura 先行販売: 2025年6月22日(日) 午前10時より  
一般販売: 2025年6月23日(月) 午前10時より

※Bunkamuraでの一般発売日(6/23(月))は、Bunkamuraチケットセンター電話およびオンラインチケット MY Bunkamura(PC:スマートフォン)での受付となります。チケットカウンター(店頭)販売はございません。

◎料金: S席(正面) 10,000円 A席(脇正面) 8,000円 (税込)  
B席(中正面) 6,000円 学生席(座敷・自由) 4,000円

※各部ごとの料金です。  
※学生席はセルリアンタワー能楽堂のみにて取り扱います。購入の際には学生証の提示をお願いいたします。  
※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

「渋谷駅」国道246号線沿いにそびえる超高層ビル「セルリアンタワー」の地下2階。

